

ふるさと福井の自然

第12号 「池や湖のトンボ」



はじめに

福井県には、九頭竜川や南川といった大きな河川とそれらの支川、北潟湖や三方五湖などの湖、さらには農業用水として利用されてきた大小のため池やその周囲に広がる水田など、さまざまな水辺環境が存在します。このような水辺には、子どもたちの良き遊び相手となってきたさまざまなトンボが生息しています。今回は、このトンボの中から、特に湖、池、水田などの「止水環境」に生息するトンボを中心に紹介します。

かつてトンボは、自然の多様な水辺環境を利用してさまざまな種に進化してきました。一方で、人間が平野部の水辺環境で稲作を始めてから、アキアカネを代表とする水田環境に適応したトンボが個体数を増加させました。さらに、農業用水確保のためのため池や小川の造成が、より一層多様な水辺環境を創造することになり、多くのトンボに生息環境を提供してきました。つまり、トンボは人間の農作文化と共に、その勢力を広げてきた生き物なのです。

しかし今、弥生時代から脈々と続けられてきたトンボと人間の共存のリズムが、高度成長期以後の急激な水田環境の変化により壊されようとしています。みんなの身近な環境からトンボが減ったと思いませんか。そこで、本誌では、福井県に生息するトンボの種類や生活を紹介し、それらがなぜ減ったのか、今後トンボと共存するために人間ができることはいったい何なのかなどについて考えてみたいと思います。

最後に、編集にあたり、写真の提供をはじめ、想切丁寧なご指導をいただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

福井県自然保護センター
所長 矢尾 正三郎

目 次

●福井のおもしろトンボ図鑑	1
・【パート1】大きさと太さ	1
・【パート2】体形	2
・【パート3】色彩	3
・【パート4】耐寒	4
・【パート5】すみか	5
・【パート6】似たもの同士	6
・【パート7】トンボ少年の憧れ	7
●トンボの生活	8~11
●トンボの体	
・トンボの分類	12
・トンボのオスとメスの見分け方	13
・本物のアカトンボか赤いトンボか調べよう	14~15
●トンボと人間の共存	
・環境の変化とトンボの移り変わり	16
・トンボのビオトープ造ろう	17
●楽しいトンボ遊び	18~19
●福井県のトンボリスト「池・湖・湿地編」	20

表紙写真説明

1	2	1. セノウシントンボ♂ 2. オニシオカラトンボ♀	1991.7.19 1998.7.2	越前市中池見湿地 小浜市岡津
3	4	1. ホシシントンボ♂ 2. ホシシントンボ♂ 3. ホシシントンボ♂ 4. オオアリオジヤンマ♀ 5. オオアリオジヤンマ♀ 6. カナイトンボ♂ 7. ヨツボシトンボ♂	1997.9.11 1997.9.11 1997.9.11 1997.9.2 1998.8.4 1998.8.4 1997.6.39	大野市六呂舎直瀬 大野市六呂舎直瀬 大野市六呂舎直瀬 大野市自然保護センター馬取池 大野市馬取池 大野市下小池

【パート2】体形

チョウのように華麗に

チョウトンボ　トンボ科（体長約35mm）

チョウのような幅の広い翅で、ひらひらと飛翔します。本州、四国、九州の平地や丘陵地のヒシなどの水生植物が多い池や沼に生息します。県内では、7～8月にかけて北潟湖で多く観察されますが、その他の場所では少ない種です。



♂ (1997.8.21 芦原町北潟湖)

体で長さが測れちゃう

モノサシトンボ　モノサシトンボ科（体長約42mm）

主に北海道から九州の、平地から丘陵地のやや薄暗い水生植物が多い池や川に生息します。腹に一日遅りが7ミリ程のものさしの目盛のような紋があります。県内では、5～8月に低地で普通に観察されます。



♀(右), ♂(左) (1997.7.1 敦賀市中池見湿地)

うちわがあつても涼しくないの

ウチワヤンマ　サナエトンボ科（体長約70mm）

主に本州、四国、九州の平地から丘陵地の深くて広い池や沼に生息します。名前はヤンマと付いていますが、サンエトンボの仲間です。県内では、6～8月に湖や大きな池で観察され、三方五湖では特に多く見られます。



♂ (1997.7.19 三方町三方湖)

つぶれたお腹が魅力的

ハラビロトンボ　トンボ科（体長約32mm）

主に北海道南部から九州の、平地から丘陵地までの水生植物が多い沼や湿地に生息します。成熟したオスは「シオカラ」色、未熟な個体やメスは「ムギワク」色で、腹部が幅の広い船型の体型をしています。県内では、5～7月に限られた湿地で観察されます。



♂ (1993.7.12 小浜市荒木)



♀ (1993.7.6 敦賀市中池見湿地)

【パート3】色彩

瑠璃星が俺のキャッチマーク

池や沼に秋風が吹き始める頃、夏の代表のギンヤンマと入れ替わり、腹部にルリ色の斑紋を持った美しいヤンマが出現します。ルリボシヤンマの仲間です。県内では、この仲間は3種類記録されていますが、ここではよく見られる2種類を紹介します。

ルリボシヤンマ ヤンマ科 (体長75~80mm)

主に北海道、本州、四国の一部の寒冷地の湿地や泥炭地に生息します。オオルリボシヤンマに比べて体が小さく、本溪の浅い所を好みます。県内では7~10月にかけて、丘陵地から赤兎山の赤池のような山地まで観察されます。



♂ (1997.8.11 大野市赤兎山赤池)

トンボのアオはみどり色

トンボの名前には、アオイトトンボ、アオヤンマなどのように「アオ」の名前が多く付けられています。しかし、ほとんどは青色ではなく緑色のトンボです。一方、青色のトンボは、ルリイトトンボ(p.4参照)、ルリボシヤンマ(p.3参照)など「ルリ」の名前が多く付かれています。

アオイトトンボ アオイトトンボ科 (体長約40mm)

主に北海道、本州、四国、九州の水生植物が多い寒冷地の池や沼に生息します。成熟したオスは、黒化して白粉をふきます。県内では6~10月にかけて、丘陵地から山地を中心に観察されます。



アオイトトンボ♂(上)
オオアオイトトンボ♂(中)
♀(下)
(3連結 1987.10.8 高原町緑谷)

オオルリボシヤンマ ヤンマ科 (体長約80mm)

主に北海道、本州、九州の水生植物が多い寒冷地の池や沼に生息します。成熟期には、なわばり争いを活発に繰り広げ、ルリボシヤンマなども追い出されます。県内では6~10月にかけて、平地から刈込池のような山地まで観察されます。



♂(右)、♀(左) (1995.9.21 大野市自然保護センタートントボの池)

アカトンボより赤いんです

ショウジョウトンボ トンボ科 (体長約48mm)

主に北海道方面は南の平地から丘陵地の水生植物の多い池、湿地、小川、公園の池などに生息します。成熟したオスは、トンボの中でも最も鮮やかな赤色ですが、アカトンボの仲間ではありません。県内では6~9月にかけて、普通に観察されます。



♂ (1997.8.26 福井市不死鳥の池)

黄色ナンバーワン

キイトトンボ イトトンボ科 (体長約38mm)

主に本州以南の平地から丘陵地の水生植物の多い池、湿地、水田、小川などに生息します。

オスはまさしく黄色いトンボで、メスもやや緑色がかかった黄色であります。他の種とは簡単に識別できます。県内では、6~9月に普通に観察されます。



♂(上)、♀(下)
(1997.7.25 大野市自然保護センタートントボの池)

【パート4】耐寒

ヤゴは深い雪に埋もれる山地帯の水底で春をじっと待つ

カラカネトンボ トンボ科 (体長約48mm)

北海道と本州中部以北の山岳地帯の湿地や池に生息します。県内では、6月に大野市の赤堀山の赤池、下小池、刈込池だけで記録され、池の上でホーリングする姿がよく見られます。



♂ (1997.6.19 大野市下小池)

ルリイトンボ イトトンボ科 (体長約35mm)

北海道と本州中部以北の山岳地帯の池に生息します。県内では、6~8月に大野市の下小池と刈込池だけで記録され、池の上をブルーの宝石のように飛ぶ姿は一見に留めます。



♂ (1996.8.4 大野市刈込池)

雪の上でもへっちららさ

キトンボ トンボ科

(体長約42mm)

主に北海道から九州の、丘陵地や低山地の林に囲まれた水生植物のある深くで大きな池に生息します。県内では9~12月にかけて、限られたため池とその周辺で観察されます。翅までオレンジ色をしたアオトンボの仲間で、素早く、積雪後にも観察されます。



♂ (1988.12.16 小浜市蘆木)

そんな綺いからだで大丈夫?

ホソミオツネントンボ アオイトンボ科 (体長約38mm)

主に本州、四国、九州の平地から低山地の水生植物が多い池、湿地、小川などに生息します。県内の記録は主に4~7月で、秋の記録はほとんどありませんが、国内でも数少ない成虫越冬のトンボです。どこかでひっそりと冬を越しているのでしょうか。



♂ (1990.5.20 翁山市岩屋)

毎年帰らずの旅

ウスバキトンボ トンボ科 (体長約45mm)

南西諸島で越冬し、毎年各地で繁殖しながら、北海道にまで分布を広げます。これは、卵化、羽化、交尾、産卵といった一世代を1ヶ月で繰り返す成長の速さがなせる技です。しかし低温に弱く、冬の間に、成虫だけではなく水中のヤゴまでも死滅します。県内では、6~10月にかけて、水辺であればどこでも観察されます。



♂ (1997.8.9 三国町川崎)

【パート5】すみか

表街道 - 明るい広い池は俺のもの -

オオヤマトンボ エゾトンボ科 (体長約83mm)

主に北海道から九州の、平地や丘陵地の開けた池や湖に生息します。オスは池の上を常に飛んで水面にバトロールし、その姿は、広い池を我が物顔に占有しているようです。県内では6~10月にかけて、平地から丘陵地の開けたため池で観察されます。



♂ (1986.10.4 小浜市荒木)

都会の池でも大丈夫

コシアキトンボ エゾトンボ科 (体長40~45mm)

本州、四国、九州の本島のある池、公園や社寺の境内の池に普通に生息するが、北東地方ではない。県内でも6~10月にかけて普通に観察される種で、都府のお池にも生息している。



♂ (1987.7.7 敦賀市長谷)

“ヨシ”的お家が大好き

アオヤンマ ヤンマ科
(体長65~70mm)

主に、本州と四国の平地のヨシ、マコモ、ガマなどの水生植物が多い池や沼に生息するヨシ原のトンボです。県内ではヨシ原が少ないので、生息地は限られますが、北海道の赤尾付近、敦賀市の中道見湿地、三方町の中山などで、6~7月に記録されています。



♀ (1997.6.8 三方町 三方園)

裏街道 - くら〜い池が好きなんです -

林の中にある薄暗い池や狭い人工の水たまり、そんな所にもトンボはやってきます。

タカネトンボ エゾトンボ科 (体長約60mm)

主に北海道、本州、四国、九州などの周囲を林に囲まれた池、社寺の境内池、林内の野水池などに生息します。暗い池の上をすばやく飛躍するので、見つけにくいトンボです。県内では、7~10月にかけて、エゾトンボ類の中で最も普通に見られる種です。



♂ (1987.5.14 高浜町音海)

ヤブヤンマ ヤンマ科 (体長約80mm)

本州、四国、九州に分布します。大きな体に似合はず、木陰の池や水たまり、狭い人工の池や水溜めなどに生息します。県内では7~9月にかけて、平地から低山地に生息しますが、観察する機会は多くありません。早朝や夕方に空高く飛翔します。



タカネトンボとヤブヤンマの生息地
(1987.8.8 高浜町音海)



♂ (1988.9.8 高浜町音海)

ネアカヨシヤンマ ヤンマ科 (体長約70mm)

主に本州中部以西、四国、九州の平地や丘陵地のヨシ、マコモ、ガマなどの水生植物が多く、周囲に林がある池や沼に生息します。アオヤンマより少なく、県内では6~9月にかけて、敦賀市中道見湿地、三方町中山、小浜市加斗などで少數が記録されています。



♀ (1991.6.28 三方町中山)

【パート7】トンボ少年の憧れコンテスト

子どもたちのよきライバル

ギンヤンマ ヤンマ科 (体長70~75mm)

トンボ採りをする子どもたちの好敵手で、多く採った子供は人気者でした。そのため、「ギン」や「シブチャン」など、地方ごとの愛称が数種もあります。全国の平地から低山地の開放的な水生植物が多い池、沼、小川などに普通に生息します。県内では、1970年頃には数が減りましたが、現在では6~9月に出現する夏のヤンマの代表種に復活しました。



♂(上)、♀(下)
(1986.10.2 高浜町日置)



♂ (1997.8.23 芦原町満良ヶ池)

美男子No.1

マルタンヤンマ ヤンマ科 (体長70~75mm)

主に本州の関東以西、四国、九州の平地から丘陵地までの水生植物が多い池や湿地に生息します。成熟したオスは、複眼と体の色がコバルトブルー色になり、最も美しいトンボといわれます。県内では、6~9月に隠された池域で少数が観察されます。



♀ (1991.8.10 大野市自然保護センター馬取池産)



♂ (1995.7.16 名古屋市昭和区八事側正寺)

クロスジギンヤンマ ヤンマ科
(体長約65mm)

ギンヤンマと似ていますが、胸によく目立つ2本の黒い縦があります。主に本州、四国、九州の平地から低山地の、水生植物が多いやや暗めの小さな池などに生息します。県内では5~7月に出現し、8月には見られなくなる初夏のヤンマです。



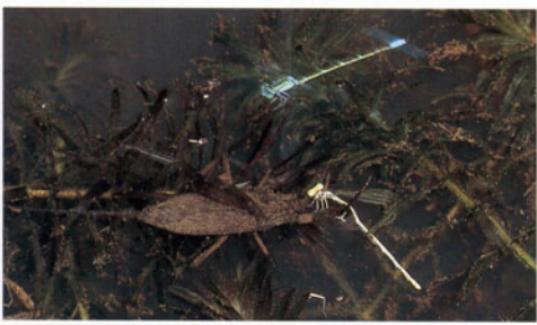
♀ (1995.5.6 金津町黒坂)

食べるものと食べられるもの 一生と死をかけたドramaー

トンボの天敵は、まず第一に自分より大きなトンボ、さらにゲンゴロウやクモなどの肉食性の節足動物、サギ類、ツバメ、チゴハヤブサなどの鳥たちです。まさに、大きなものが小さいものを食べるという太古から繰り広げられてきた自然界の掟が、今も続いています。その他、不慮の事故で死亡する個体も多くいます。



ゲンゴロウの幼虫に捕食されるギンヤンマのヤゴ
(1997.6.19 大野市南六呂瀬池)



タイコウチに捕食されるセスジイトンボ
(1997.8.8 三方町三方湖)



アリに捕まつたコサナエ
(1991.5.6 大野市利込池)



アメンボに捕食されるハッチョウトンボ
(1992.7.1 福井市木町)



アブに捕食されたアキアカネ
(1997.7.18 高浜町子生)



ヒメカマキリに捕食されるアキアカネ
(1997.11.6 小浜市荒木)



クモの巣に捕らえられたシオカラトンボ
(1996.8.30 小浜市荒木)



カエルに捕食されるアオイトンボ
(1987.10.8 高浜町舞合)



サギに捕食されるヤンマのヤゴ
(1995.9.4 熊江市中野町)



アオモンイトンボに捕食された
アジアイトトンボ
(1997.7.21 三方町久々子瀬)



コサナエに捕食されるアオイトンボ
(1996.8.4 大野市朝辺池)



オオリボシヤンマに捕食されるウスバキトンボ
(1997.9.25 大野市六呂師高原)



ギンヤンマに捕食されるシオカラトンボ
(1992.7.15 裏貫市中池泡湿地)



水面に落ちもがくナツアカネ
(1997.10.20 萩原町赤尾)



交通事故にあつたシオカラトンボ
(1997.8.21 金津町金津IC.)



交通事故にあつたオニヤンマ
(1997.9.1 福井市木町)

トンボの体

トンボの分類

トンボの仲間は、翅や翅脈の形、雄の外部生殖器や尾部付属器の形で、均翅亜目、ムカシトンボ亜目、不均翅亜目の3つに大きく分けられます。福井県内で記録があるトンボは、3亜目・11科です。亜目の体の違いを、写真で確かめてみましょう。

均翅亜目（イトトンボ・カワトンボの仲間）

イトトンボ科、モノサシトンボ科、アオイトトンボ科、カワトンボ科



アオイトトンボ科の
ヤゴ
(1997.7.25 大野市南六呂瀬産)



アオイトトンボ
♂ (上)、♀(下)
(1991.9.13 大野市馬取池産)

ムカシトンボ亜目（ムカシトンボ）

ムカシトンボ科



ムカシトンボのヤゴ
(1995.1.8 越前町米ノ)



ムカシトンボ 幸
(1997.5.12 金津産)

不均翅亜目（ヤンマ・アカトンボの仲間）

ムカシヤンマ科、サナエトンボ科、オニヤンマ科、ヤンマ科、エゾトンボ科、トンボ科

サナエトンボ科



アオサナエのヤゴ
(1997.9.3 名田庄村口坂本)

トンボ科



マユタテアカネのヤゴ
(1997.7.25 大野市南六呂瀬産)

ヤンマ科



オオルリボシヤンマのヤゴ
(1997.7.25 大野市南六呂瀬産)



アオサナエ ♂
(1997.6.8 名田庄村口坂本)



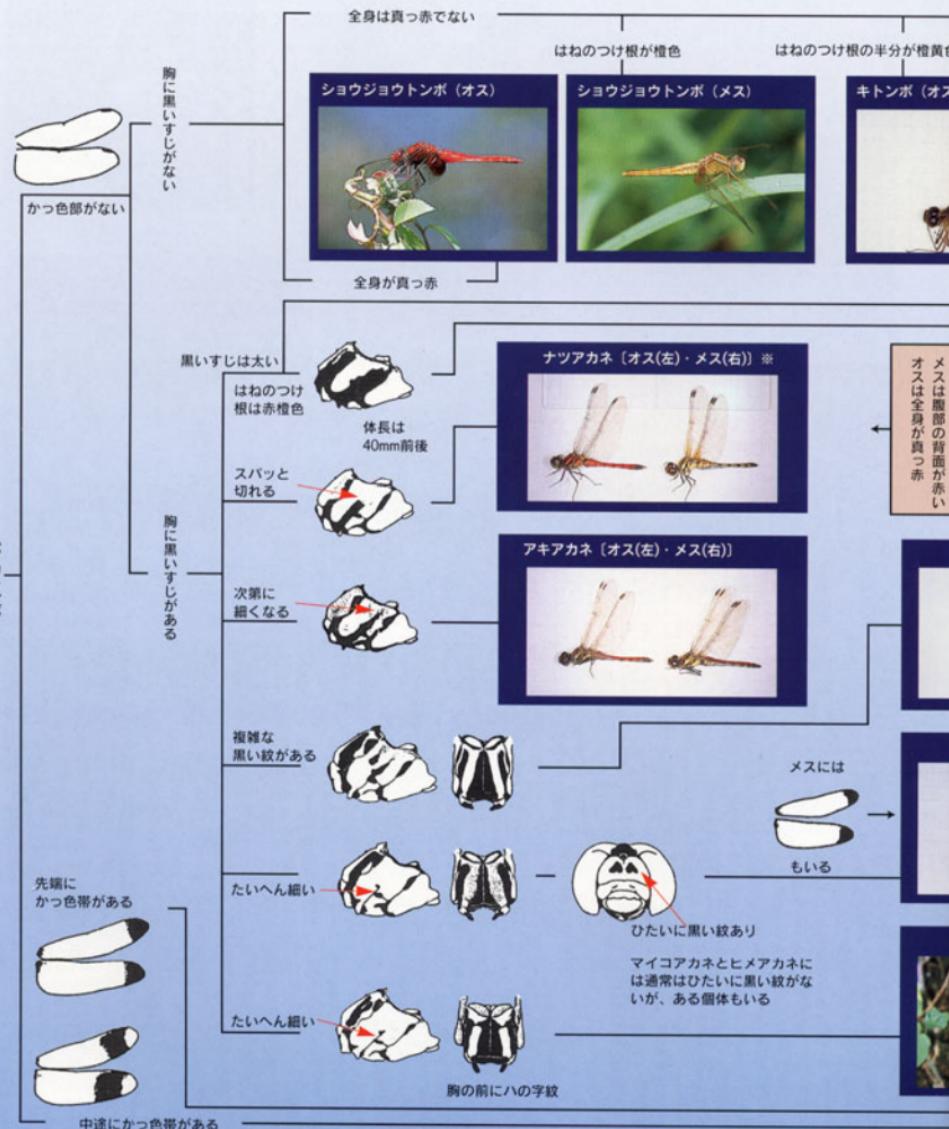
マユタテアカネ ♂
(1994.10.8 鷹山市小矢谷産)



オオルリボシヤンマ ♀
(1991.9.13 大野市馬取池産)

本物のアカトンボか、赤いトンボか調べてみよう！！

アカトンボは、分類学上「アカトンボ属」分けられます。しかし、アカトンボ属でなくとも赤いトンボ、アカトンボ属でも赤くないトンボがいるから、“アカトンボ”は混乱します。さあ、“アカトンボ”を見たら調べてみましょう。





アカトンボの網渡り
(1997.10.7 戸屋町赤尾)



(1997.10.10 大野市自然保護センタートンボの池)



(1997.10.1 大野市自然保護センター
トンボの池)



(1997.10.3 大野市自然保護センター
トンボの池)



ウチワヤンマ
(1997.7.19 三方町三方園)



トンボのにらめっこ
(1997.9.30 大野市六呂師高原)



(1997.10.3 大野市自然保護センター
トンボの池)



